

居合道諸知識

柄の握る所

- ①右人差し指を軽く伸ばして鐔に軽く触れる位のところ。(右手)
- ②右手、左手の間は3～4cmくらい開ける。場合によっては指一本。
- ③左手は握る場所を変化させる。構えた時は大きく開く。(原則、糸留に小指をかけない)
- ④刀を長く使う時は、右手は柄中央、左手は柄頭を握る。

足の踏み替え

- ①残心を示す為
- ②腰の安定を図る為

納刀について

- ①技の締め括りである
- ②格をもって納める
- ③直伝と神伝の納刀について

直伝—佩刀はいとう (居合の出来た時〈天文 1554〉景虎の時代)
神伝—二本差し (江戸期・紋服着用)

古流の要点

- ①膝の寄せ
- ②腰の絞り

高知・清風館道場訓

- 一、肩出すな 胸出せ 腹出せ 腰を出せ
- 二、腰引くな 下がるは肩から 出るは腰から
- 三、足上げな 足で掴め床の板
- 四、吸う息は 胸に入れるな 腹に入れ
- 五、肩で切るな 腰で切れ 刀の止めは小指締め
- 六、手で切るな 肩でも駄目だ 腰で切れ
- 七、腹折るな 腹出せ 腰出せ 逆「く」の字

居合稽古上の重要な事

- 一、 刀が一番近道を通っている事。
- 二、 無涯塾の居合は最初「後の先」で有る事。敵が逃げたら逃す事。
- 三、 敵に密着して勝つ事。
- 四、 刀を上段・八双に構える時敵を踏み込ませない事。
- 五、 打ち込んだ剣先や、刃筋をを敵に付けておいて次の行動をする事。
- 六、 隙の無い動作をする事。
- 七、 鞘引き、突きは左手、右手は反対の動作をする事。
- 八、 納刀した時、柄頭が相手を威圧している事。
- 九、 血振りは血を振る動作だが、気持ちのまとめを表現する事。
- 十、 足の踏み替えは、心の整理である。
- 十一、 敵を想定した動き振る舞いをする事。
- 十二、 立ち坐共に 4.5m 先を遠山を望むが如く。但し、動作中は常に相手の目に付ける。
- 十三、 倒した敵に心を残し（残心）、油断の無い心を血振りから納刀まで崩さない。
- 十四、 静かに刀に手をかけた時、敵に対し「抜くな、抜くな、抜けば切るぞ」と念じ乍。

無涯塾では「袈裟の一太刀」の精神で演武する